

## 第1回地域価値ワーキンググループ

# 新聞社が展開する地域づくり

福島民報社 編集局長 鞍田 炎



2020年1月17日



# 福島民報社

福島県の地方紙(本社＝福島市、従業員数310人)

創刊128年目(明治25年8月1日)

本社、郡山本社のほか、県内外に11支社、15支局

発行部数24万8,695部、県内最多(2019年4月 日本ABC協会)

# ■福島県は3・11で一変した

2011. 3. 12 朝刊1面

2011.3.14 朝刊1面

2011. 3. 13 朝刊1面

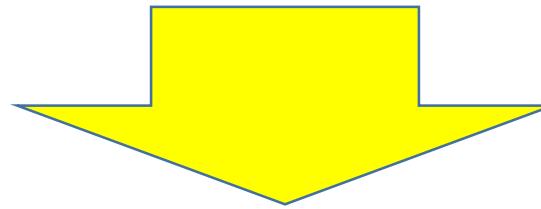
10版 841936号 2011年(平成23年)3月12日(土曜日)



## ■震災後、何をすべきなのか

### 課題

- ・2011年3月11日に発生した東日本大震災、原発事故による被害回復
- ・自然減に加えた避難に伴う人口減少、企業減少
- ・少子高齢化の加速、過疎化の加速…



「地域づくり会社」を社是に

柱の一つが「産業づくり」…・知的財産活用を推進  
※他に「人づくり」「健康づくり」を推進中

# ■2015年度 ふくしま産業賞を創設

## 個人、企業、団体、ものづくり支援

# 「ふくしま産業賞」創設

# 福島民報、県などと共に催

福島県農業社は産業やものづくりの振興により本県の活力を高めるため、県や県内の経済団体、農林水産団体など協力し、「福島県経済・産業・ものづくり賞」(略称・ふくしま産業賞)を創設する。経営規模や経営体を問わず、優れた事業を展開する企業・経営者、ものづくりに携わる企業・団体・個人などを表彰する。受賞社(者)の取り組みを県民に紹介し、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興加速を図る。八月から九月末まで募集し、平成二十八年二月に表彰式を行う。多様で意欲的な取り組みをたたえ、このうち最優秀には知事賞を贈る。

## 8月から募集

ふくしま産業賞

- ▷主催=福島民報社
- ▷共催=二県、県商工会議所連合会、県商工会連合会、県中小企業団体中央会、福島経済同友会、県経営者協会連合会、県中小企業家同友会、J A福島五連、県森林組合連合会、県森林・林業・緑化協会、県木材協同組合連合会、県漁連
- ▷後援=東北経済産業局、復興庁福島復興局、県市長会、県町村会

主たる事業を展開する企業、經營者など。六次化の取り組みをはじめ「ものづくり」全般を含める。応募の詳細は募集開始に合わせて発表する。問い合わせは福島民報社事業局 24(531) 417-1へ。

- ・産業・ものづくりの振興
- ・地域資源の活用

# 企業活動、農林水産、 六次化、新規産業… 先駆的・率先している 企業・団体を表彰

## 社員の意識向上、 地域での認知度向上 若者の地元就職

# 住み続けられる地域づくり

論 説 ふくしま産業賞

本県にとっての課題は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興であることは誰もが認めるところだ。しかし、原発事故前から少子化・高齢化・過疎という難題があったことを忘れてはならない。真の復興のためには、「人口減少や人口」の偏在など地方が等しく抱える問題も解決する必要がある。県民や行政は産業・ものづくりの振興・地域資源の活用など働く場の確保に、これまで以上に大きな関心を払っていくべきだ。

福島民報社は本県の活力を高めるため県や県内の経済、商工業、農林水産などの各団体協力し、「ふくしま経済」のため多くの町村は奮闘が限られ、人口の流出が

・産業・ものづくり賞」（略）

ふくしま産業賞を創設した。一日から募集を開始する。奮って応募してほしい。

「ふくしま産業賞」は、規模や経営体を問わず、優れた事業を開拓する企業・経営者・団体・個人などを表彰する。その取り組みを広く紹介する。

## 県土の隅々に「働く場」

し、大震災と原発事故からの復興加速度を図る。

東京に人口が集中するようになり、十三市の人口が県内でも人口の偏在化が進んでいる。

本県は東北有数の工場立地県であり、高い技術力を持つ企業が多い。企業や経営者は震災と原発事故後も復興に向け努力を続けていた。こうした動きを支援し、雇用の拡大を図る。

本県の産業・ものづくりを統一している。持続可能な県土をつくるには、県の隅々までそのづくりの基盤を整備する。これが求められる。

「ふくしま産業賞」は、都市部の企業活動だけでなく、農富な森林資源を活用した産業創出・農林水産業の六次化を含む新たな事業展開を、伝統工芸も応援し、住み続けられる地域づくりを目指す。一方で、地域づくりを自指する。建蔽率として注目されるC LT（直角集成板）の国内最大級の生産工場が、県内に設置されることになった。林業・製材業の再生の力になる。

可能性はまだある。「ふくしま産業賞」は、県民の願い、決意をかなえる足掛かりにし

称・ふくしま産業賞）を創設した。日本酒は全国新酒鑑評会で金賞の銘柄数が三年連続日本一になった。英國で開かれた世界最大のワイン品評会の日本酒部門で、これまで酒造が世界になった。医療機器の生産額は全国三位。ロボット産業の集積も進んでいる。

忘れてならないのは農畜産業である。日本酒鑑評会で金賞の銘柄数が三年連続日本一になった。英國で開かれた世界最大のワイン品評会の日本酒部門で、これまで酒造が世界になった。医療機器の生産額は全国三位。ロボット産業の集積も進んでいる。

本県の産業・ものづくりは、国内外で高い評価を得ている。持続可能な県土で、ふくしま産業賞）を創設した。日本酒は全国新酒鑑評会で金賞の銘柄数が三年連続日本一になった。英國で開かれた世界最大のワイン品評会の日本酒部門で、これまで酒造が世界になった。医療機器の生産額は全国三位。ロボット産業の集積も進んでいる。

忘れてならないのは農畜産業である。日本酒鑑評会で金賞の銘柄数が三年連続日本一になった。英國で開かれた世界最大のワイン品評会の日本酒部門で、これまで酒造が世界になった。医療機器の生産額は全国三位。ロボット産業の集積も進んでいる。

## ■専門委員会と選考委員会の2段階評価

専門委員会…共催の県、各種経済団体の代表

福島県、県商工会議所連合会、県商工会連合会、県中小企業団体中央会、  
福島経済同友会、県経営者協会連合会、県中小企業家同友会、JAグループ福島、  
県森林組合連合会、県森林・林業・緑化協会、県木材協同組合連合会、  
県漁業協同組合連合会

### 選考委員会

委員長 蛭田史郎氏(旭化成相談役)…いわき市出身

委員 佐藤辰彦氏(創成国際特許事務所会長、元日本弁理士会長

…福島市出身

小泉武夫氏(東京農大名誉教授)…小野町出身

西川和明氏(福島大客員教授、専門委員会座長)

福島県県商工労働部長

福島民報社編集局長

2015. 1. 22 第1回発表

# ■紙面で受賞企業を盛り上げ

第1回表彰式で「世界一の産業県を目指すと宣言

2016. 2. 20 第1回表彰式

## 「世界一の産業県」宣言



### 25社・団体たたえる

福島民報  
2月20日

紫川

5年  
8-9面

24面

14面

## ■第3回表彰式(1~3面で連続掲載)

2018. 2. 17

## ■毎年の表彰式で交流会(マッチング)を開催

全受賞社にブース提供 → 企業同士が即座に商談  
→ 共同で新商品開発・販売、事業連携へ

# 連携 新たな可能性

## 第4回表彰式 2019年2月9日付

## 第3回表彰式 2018年2月17日付

## 広がる、膨らむ発想

彰式  
2月17日付

ふくしま産業賞  
受賞者  
田中、アーニス、ゴサード、  
三義漆器店（若松）&  
福島ガインックス（三春）  
六月に開かれた福島県の第三回令和元年  
手を携ふる商へ選出されたマルチベンダー  
の会員企業の第三回令和元年  
交流会

ガラス製品でコラボ  
FHA-RT-0ランプワーク  
アクトリートリーソウル  
& わき

A group of people are gathered in a room with wooden paneling, engaged in conversation. In the foreground, a man in a dark suit and tie is smiling, a woman in a grey blazer is holding a small electronic device, and another man in a dark suit with glasses is looking at the device. The background shows other people in professional attire, suggesting a networking or exhibition setting.

# 第2回表 2017年

# つながり 未来開く

自慢の卵宿で提供  
新鮮な相場の  
の米豚肉がお求め  
おもてなしの卵を販  
てみたい」とお尋ね  
埋怨の声がござ  
キタマヨの卵を販  
うござる様子で  
あつた。おまけに  
おもてなしの卵を販  
てみたい」とお尋ね  
埋怨の声がござ  
キタマヨの卵を販  
うござる様子で

形式  
2月5日付

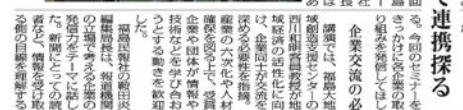
P.9

# ■ 産業賞受賞企業を集めシンポジウム、セミナー → 知財啓発、マッチング促進



受賞企業・団体セミナー

## 技術生かし販路拡大 発信力向上目指す



## 交流会で連携探る



## 伝え方など実演 模擬記者会見



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



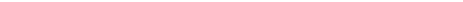
## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## 受賞企業・団体



## ■第1回地域未来けん引企業サミット (経産省主催)と連携

選ばれた県内52企業のうち、ふくしま産業賞受賞は15企業。サミットでは産業賞ブースを設け、受賞企業の力を紹介

経済産業省が十四日に会津若松市で開催する地域未来けん引企業サミットには、全国の優良中小企業や産業支援機関などから約千人が参加する。世耕弘成経済産業相が十日で開講後記者会見で明らかにした。第一部のセミットは午後一時から會津風雅堂で、第二部の交流会は午後六時から芦ノ牧温泉の大川荘で開く。

八社などから数百社が参加する予定で、全国の優良中小企業が一堂に会するのは初めて。各企業が持つ優れた技術や成功事例などの情報を共育し、地域の枠を超えた新商品開発、販路開拓などにつなげる。

県は再生可能エネルギーや医療機器、航空宇宙分野など成長が期待される産業や福島、

国際研究産業都市（ノベーション・コース）は、構想を中心とした企業の取り組みや技術力、知的財産などを幅広く紹介する。東京電力福島第一原発事故に伴う風評が根強く、県産品や観光の魅力を発信に力を入れる。世耕氏は見で「地域経済をけん引する企業の間で交流が深まり、地域を超えたコラボレーションが生まれることを期待したい。風評払拭（ふっしょく）」の一助になれば」と述べた。

# 1部は會津風雅堂

2018年4月15日付

A photograph showing three men in dark suits standing in front of a display board. The display board is covered with numerous newspaper clippings and photographs related to the 2004 Summer Olympics in Tokyo. The man on the left is holding a small booklet or brochure. They appear to be engaged in a discussion or presentation about the Olympic campaign.

【案】の通り、  
交流会のメニューは、  
風評・松井と歓迎  
・知識や案内書  
・祝辞等述べた内閣書記官  
・連絡事は本紙が譲  
受けたことは経済に重  
き続ければ、経済が重  
視の再びが不可欠だと  
して、内閣書記官が譲  
受けたと、内閣書記官  
や分配を超えた新しい  
ネットワークが生まれ  
ることを期待すると  
、若松市長は、産業育成  
のための風評・松井  
（ふっしょく）に納  
（なつしょく）り、  
その苦労で来ていた  
ふくしま産業賞ア・ビール

## 県内外 経営者が紹介

交流会で  
提供された  
主なメニュー

- ・会津地鶏の有馬  
煮
- ・馬刺し
- ・県産ローストビ  
ーフ
- ・アワビ碳焼きと  
タラバガニステ  
ーキの会津アス  
バラ添え
- ・甘鶴鮎蒸しと会津  
温泉鰯がりタケノ  
コウマ煮
- ・会津そば
- ・会津身不知あん  
ぼ柿

P.11



## ■受賞企業の連携事業(イベント)

会津地方の受賞企業が合同  
イベントを開催(3年目)。  
2019年から学生部門受賞校も参加



# 2日間で約1万500人来場 2019 子どもの夢とおいしいものの祭り閉幕



キーホルダー作りに挑戦する  
眞白さん(右)と眞名さん

介するコーナーや、も  
のづくりを体験するコ  
ーナーを設けた。  
体験コーナーには大  
勢の子どもたちが訪れ  
た。会津若松市の清水  
真白(ましろ)さん(10)  
||鶴城小五年||と真名  
(まな)さん(6)と同  
三年||姉妹はランドセ  
ルの生地を使つたキー  
ホルダー作りに挑戦し  
た。「いろんな色の生  
地を組み合わせて思い  
通りのキー ホルダーが  
できた。楽しかった」

第一～四回ふくしま経済・産業・ものづくり賞（ふくしま産業賞）を受けた会津地方の十七の企業や団体による「2019 子どもの夢とおいしいもの祭り」は十九日、湯川村にある道の駅あいづ湯川・会津坂下で閉幕した。十八日からの二日間で、延べ約一万五百人が会場に足を運び、会津が誇る食や伝統の技の魅力に触れた。

## 会津の食、技触れる

P.13

## ■受賞企業の情報発信協力

2019年は受賞企業に出展を促し日本橋の福島県のアンテナショップ「ミデッテ」でロングランのフェアを開催

2019年6月22日付

2019年6月15日付

福島民報社の「ふくしま経済・産業・ものづくり賞（ふくしま産業賞）」を受けた県内企業が伝統工芸の技、ま

来月 東京で初フェア

受賞8社・団体出店 販路拡大目指す

出店者	14日 (金)	15日 (土)	16日 (日)	販売品など
野沢民芸品製作企 業組合 (西会津)	○	○	○	民芸品販売、絵付け 体験
みやこじスイーツ ゆい (田村)	○	○	○	ゆいブリンクリッヂ、 シフォンケーキ販売
G N S (二本松)	—	○	○	えごま油など販売
東北協同乳業 (本宮)	○	—	—	11/19—B1乳酸菌 ヨーグルト販売

出店者	21日 (金)	22日 (土)	23日 (日)	販売品など
大七酒造 (二本松)	○	○	○	清酒・リキュールの 販売
渋谷レックス (福島)	○	○	○	「なつ葉子屋」販売
ホームベーカリー コピヤマ (会津若松)	—	○	○	會津が香るシュトーレン、各種パン販売
大福食品 (棚倉)	○	—	—	青豆寄せ豆餅、バジ ルde青豆販売

品が並ぶ。  
開催時間は平日が午  
前十時半から午後八時  
まで、土・日曜日が午  
前十一時から午後六時  
まで。問い合わせは福  
島民報社産業振興部  
電話024-(5331)  
4087。

野沢民芸品製作企業組合(西会津町)は、亦へコや起き上がり小法師(こぼし)の絵付け体験を行い、福島に根付く伝統工芸の魅力をアピールする。日本酒、駄菓子、パン、ブリーフ、豆腐、ヨーグルト、えごま油など、独自の製法でつくった商品を販売する。

2019年5月31日付

# ■金融機関と産業賞の連携

県内8信用金庫、城南信金と連携事業を開始。城南信金が全国200の信金に呼び掛け開催している国内最大級のBtoB・Cイベント「よい仕事おこしフェア」(毎年秋、東京国際フォーラム)で産業賞受賞企業にPRの場を提供

## 産業賞表彰式で城南信金理事長が支援約束



城南信金  
守田正夫理事長  
福島発展支援  
城南信用金庫(本店・東京都品川区)は平一「よい仕事おこし」  
復興への取り組みの継続を誓う守田理事長

今回の表彰式には同金庫の守田正夫理事長が出席した。「栄えある受賞企業・団体に心より敬服する。今後の取り組みが楽しみだ。これからも福島の発展と復興支援につき、受賞した関係者が取り組みを継続していくたい」とあいさつし、受賞した関係者

2017年2月5日付

## 「世界一」の産業県に

「よい仕事おこし」フェア



ふくしま産業賞  
受賞企業  
決意新た

ふくしま産業のPRイベントに臨む(左から)森社長、理事会長、太田支店長、横口理事長、副田印典、高橋社長、野村社長。右から2人はマスルス代表を紹介する森社長

2017年8月23日付

## 産業県躍進へ一丸

「よい仕事おこし」フェア



ふくしま  
受賞企業が決意

ふくしま  
製品PRで手応え

ふくしま  
「ふくしま」の技発信

ふくしま  
会場内

2018年9月20日付

## 地方の力 全国へ

「よい仕事おこし」フェア



東京の東京国際フォーラムでの熱座を務める庄司社長(右から2人目)。左から高橋社長、吉澤理事長。右は井出副取締役

2019年10月8日付

P.15

システム「世にないもの作る」

## ■金融機関との連携

受賞企業でもある福島銀行が他受賞企業を訪問するバスツアーを開催。応募殺到。民報社が仲介。県民が受賞企業を知る一助に

羅羅屋(若松)

道の駅あいづ湯川・会津坂下(湯川)

会津中央乳業(坂下)



## 受賞企業をツアーアー

第2回ふくしま経済・産業・ものづくり賞(ふくしま産業賞)で特別賞を受賞した福島銀行(福島市)は6月8日、銀賞の羅羅屋(会津若松市)、特別賞の道の駅あいづ湯川・会津坂下(湯川村)、会津中央乳業(会津坂下町)を巡るツアーを催す。受賞を機に生まれたつながりを生かし、福島が誇る技術や食の豊かさを県民に広く知らしめよう。



ツアーは地域の元気づくりのため同行が季節ごとに開催している「ふくぎん10大イベント」の一環。福島市と郡山市をバスで出発し、会津坂下町の会津中央乳業の工場を訪問。会津産の生乳にこ

技と食 知る機会に

福島銀行、来月8日

だわる同社の取り組みを学び、乳製品作りを体験する。湯川村の道の駅あいづ湯川・会津坂下で会津地方の米や野菜を使った特製の弁当を味わった後、会津若松市にある羅羅屋の工場を見学。オーダーメードのランドセルの製造方法に理解を深める。

ツアーは2月に福島市の民報ビルで開かれた第2回ふくしま産業賞交流会での、福島銀行の森川英治社長と羅羅屋の安東裕子社長との会話をきっかけに実現した。同行地域貢献室の猪股徹也室長は「会津地方で受け継がれる伝統の技やこだわりを多くの人に知ってほしい」と話している。

### 先着順、定員40人

定員は40人で、参加料などは検討中。同行は先着順に申し込みを受け付ける。問い合わせ、申し込みはフリーダイヤル(0120)402940へ(平日午前9時から午後5時まで)。

### 27、28日 異業種連携事業 会津地方の9企業・団体

羅羅屋、道の駅あいづ湯川・会津坂下、会津中央乳業など第2回ふくしま産業賞を受賞した会津地方の全9企業・団体は27、28の両日、道の駅あいづ湯川・会津坂下で初の異業種連携事業を開催する。会津に根付くものづくりや食の魅力を発信する。

## 企業の誇り間近に

ふくしま  
産業賞



牛乳を飲み比べする参加者—会津中央乳業



アスパラガスなど新鮮野菜を販賣する  
参加者—道の駅あいづ湯川・会津坂下

二瓶佳子(会津中央乳業部長)が

二瓶佳子(会津

## ■若者のものづくり、知財活用の意識醸成 (高校、大学、専門学校生)

2018年度の第4回ふくしま産業賞から高校生以上を対象に  
「学生部門」を新設

2019年度の最高賞には  
ノーベル化学賞を受賞した  
吉野彰氏(旭化成名譽フェ  
ロー)からトロフィーが授与  
…2月7日表彰式

# 「吉野彰トロフィー」授与

本県をはじめ日本の産業開発・産業創造地域づくりにつながる若い世代の取り組みを一層活性化するため授与する。五回の節目を迎えた「ふしま産業賞」で、ヘルバ賞、賞者から贈られる記念賞などとなる。二〇一八(平成三十)年度の「第四回ふしま産業賞」に続き、二回目の賞典となった今回の学生部門には、県内の大学、短大、専門学校、高校などから計二十五件の応募があった。県農林食材を使ったメニュー開発、風評拡張(ふしそよし)に向けて開発された地域活性化に向けた取り組みをはじめ、土木工業など多彩な分野の賞典となりました。

2019年  
12月10日付  
朝刊1面トップ

# 学生部門 最優秀に

## 地域づくりへ活動奨励

県内の産業振興につながる若者の優れた  
野の案件がそろそろ  
県、経済団体など

る専門委員会の審査を経て、本県のかりの有識者で構成する選考委員会で受賞校を決定する。

## 第4回ふくしま産業賞 来月1日から応募受け付け

来月1日から応募受け付け

學生獎勵賞を創設  
是内の長老の差薦云々、也或ひづの反対、シカクづ、イメント、青書、土

8月末。12月の選考委員会で名賞を決定し、来年2月に表彰式を行なう予定。

〔共催、後援団体〕 友会 JAグループ福島、コソノーシアムふくしま、県森林組合連合会、県森林県市長会、県町村会

△共催＝県、県商工会議 同組合連合会 協同組合連合会、県漁業協同組合連合会、県木材協会

△所連合会 商工会連合会、後援＝経済産業省東北経済産業局、復興局福島復興局、中小企業基盤整備機関、構東北本部、アカデミア・

△問い合わせ先＝電話 024(5031-14171) 福島民報社事業局「ふくしま産業」編集局、「ふくしま産業」編集局、福島民報社のホームページアドレス <http://www.minfo.jp/>

# 学生奨励賞を創設

県内の未来の産業振興、地域づくりの貢献、ものづくり、イベント、情報、サポートある若者の意欲的な活動をたたえるため、学生奨励賞を創設する。

〔対象〕 県内の大学、高専、短大、高校、専門学校等の学生による活動グループ、住民との連携、地域社会への波及効果など総合的に判断する。(審査方法、応募方法は一般的の応募と同じ。団体推薦は個人間ね)

〔表彰分野〕 県内の産業発展・産業創造、地域づくりにつながる商品開発・流通・必要しない)

2018年6月18日付  
朝刊1面

# ■学生部門(2018年度 第4回産業賞で創設)受賞校

2019年(平成31年)1月16日(金曜日) ■ 高 風 報

■ (1) ■ (2) ■ (3) ■ (4) ■ (5) ■ (6) ■ (7) ■ (8) ■ (9) ■ (10)

西会津高(西会津)  
西高魅力発信隊  
学生貢献  
特産品活用し新商品  
葛尾村の復興後押し  
若旦那図鑑を発行  
VRコンテンツ開発  
小高産業技術高(南相馬)  
商業研究部  
6次化商品で活性化

福島学院大短期大学部  
情報ビジネス学科 木村せみ(福島)  
学生貢献  
次代担う力

秋山真範(金津4年)  
まさのり  
学生貢献  
会津高(金津若松)  
Openappiab 農業IoTチーム  
情報装置で農業支援

福島高 SS部放射線班  
放射線課題解決探る

郡山女子大・短期大学部  
「しみちゃんズ」  
学生貢献  
若者目線で地域貢献  
古里活性化  
第4回ふくしま産業賞  
学生部門受賞校  
福島大(福島)  
学生団体「むだち」  
県内で五輪遺産残す  
福島高  
SS部復興プロジェクト班  
好適環境水でウナギ  
会津大短期大学部  
産業情報学科 高橋ゼミ(会津若松)  
伝統野菜の普及に力  
桜の聖母短大(福島)  
生活科学科食物栄養専攻  
スーパーと弁当考案  
福島大(福島)  
経済経営学類 吉田ゼミ  
街中周遊バス企画  
福島高  
SS部復興プロジェクト班  
ハチミツが特産品に  
安達東高(二本松)  
農業コース高農専攻班  
P.18

会津農林高(会津若松)  
人と繋がる会津伝統野菜専攻班  
会津大短期大学部  
産業情報学科 高橋ゼミ(会津若松)  
伝統野菜の普及に力  
桜の聖母短大(福島)  
生活科学科食物栄養専攻  
スーパーと弁当考案  
福島大(福島)  
経済経営学類 吉田ゼミ  
街中周遊バス企画  
福島高  
SS部復興プロジェクト班  
好適環境水でウナギ  
安達東高(二本松)  
農業コース高農専攻班  
ハチミツが特産品に



## ■若者のアイデア活用の意識醸成(小中学生)

# 2019年度に小中学生まちづくり大賞 (ふくしまジュニアチャレンジ)を新設

# 地域創生に関する「活動」「アイデア」(発明、知財含む)分野で優れた作品を表彰

## 133件の応募

・2月9日に第1回表彰式

## 来月から募集

（令和三）年三月で、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から十年の大変な年が終り、また新たな年を迎える。創造的な地域再生を遂げるには、時には既成の概念にとらわれない新鮮な発想と旺盛な行動力が一層求められる。「ふくしまデジュニアチャレンジ」を設け、次代の復興の担い手である小中学生の社会や郷土に対する意識を高め、創意工夫の精神を奨励する。

社会の課題を把握した上で、行動の目標を立てているかをまず審査する。(1)活動に主体性はあるか(2)住民との関わりは含まれているか(3)目標達成の可能性は「なし」も評価の基準となる。(ア)ニア部門は地域社会の課題と魅力をいかに捉えているか。

# 小中生まちづくり大賞創設

# 福島民報社 創意工夫で古里活性

ふくしまジュニアチャレンジ  
▷主催=福島民報社  
▷後援=県、県教委、県私立中学校  
等学校協会、県市長会、県町村会  
県商工会議所連合会、県商工会連  
会、J A 福島五連、県森林・林業  
緑化協会、県発明協会

2019年  
9月3日付  
朝刊1面トップ

## ■まとめ(ふくしま産業賞)

### ふくしま産業賞

2015年度に創設。「挑戦  
世界一の産業県ふくしま」を  
第1回表彰式で宣言し5年目

#### 実施概要

##### 表彰

交流会(受賞同士マッチング)  
セミナー・シンポジウムの開催  
受賞企業による販売・PRイベント開催提案・協力  
県や金融機関と連携した受賞企業PRイベント提案・協力  
紙面・Webによる企業・学生の事業、製品紹介

#### 効果

企業・学生の生産活動意欲向上  
企業や学生と地域(住民)の接点づくり  
受賞企業同士の連携事業増加  
若者の地元就職機会の創出  
企業・若者の知財活用等意識啓発

ふくしま  
独自の  
地域づくり



## ■産業賞から派生した知財関連事業・協力

## ■日本弁理士会と連携(事業)・・・第1回知財広め隊セミナーの設営、運営、集客(2017年7月19日、郡山市)



2017年  
7月20日付  
3面トップ



# ・・・第1回知財広め隊セミナーの設営、運営、集客(2017年7月19日、郡山市)

セミナーは、知財広め蔵と銃打ち、七月十九日のホテルハマツ(郡山)での第1回をトップに、二十九、三十年度に四十七都道府県の約百五〇所を巡回。各地の中小企業、知財の有用性を広め、地元の弁理士や知財に關わる団体との接点を提供する。

※ 知的財産権と弁理士、特許や実用新案、商標、意匠、著作権等の権利の保護等の権利や、アドバイスを創作者の活動により生み出され保護し、創意意欲を保護する制度。弁理士は知財権を取得しようとする企業や個人を代理し、特許庁へ出願を行なう。知財権や特許等の権利を換取する方法を指す。

# 創生

ふくしま産業

郡山開催は福島民報報道部主催する顕彰式。社が主催する「ふくしま経済・産業大賞(しま産業賞)」の選考委員会を務め、県内経済の復興に尽力している元会長の佐藤辰彦氏(創成國際特許事務所)の食(農、福島市出身)の働き掛けで実現した。

当日は佐藤氏が話題

2017年6月7日付 朝刊1面トップ

セミナーでは想定を超える約250人が集まり、知的財産の有効性を再認識

## 福島県内の知財 活用の動きがここから加速

日本弁理士会

# 知的財産活用を促進

日本弁理士会は県内の中小企業に特許や商標、意匠などの知的財産権(知財)の戦略的な活用を助言し、事業拡大や業績向上を支援する。七月、郡山市で全国トップを切って無料セミナーを開く。ペナル討論などを通じて知財戦略の利点を学ぶ。

# 月セミナー 産業 財産活用

# 復興後押しを促進









## ■特許庁事業(2019年度、残り2回)

2019年度最終セミナーは今年1月22日に郡山市で開催。

ノーベル化学賞受賞の吉野彰氏が講演を快諾  
「はやぶさ2」に参画した県内企業、大学  
のパネル討論も開催。1日で定員に達し、  
約500人規模で開催予定

## 来月、郡山の特許庁セミナー

## 「はやぶさ2」参画企業や大学

特許庁 福島知財活用プロジェクト セミナー  
「えんしょく」東北知財プロジェクトセミナー

12:30	開 場	
13:00	併催セミナー	「気財とあわせて考える標準化戦略」(東北経済産業局)
14:00	開 会	
	主催あいさつ	内堀雅雄知事
	主催あいさつ	昌戸里華都山市長
	講 演	松永明計府長官
	パネルディスカッション	「はやはさ2」成功の鍵とこくしまの力
	パネリスト	古河電池 技術開発本部研究統括部 専業推進室 坂本留美子 NECプラットフォームズ 生産本部工場生産推進部 部長 桑田義人 本部東北生産部技術推進室 部長シニアエキスパート 野地英男 JAXA 宇宙科学研究所 田畠耕二郎研究室助教 佐伯季尚 モデレーター
		会津大学宇宙情報科学研究所 ジター上級教授 平田成江 リチウムイオン電池がつくる未来 旭化成名誉フェロー 吉野彰
17:20	閉会(予定)	



希望者はOF-1「  
申し込みフォーム」  
要事項を入力する

「アクセスし、必

## 技術、開発力を紹介

セミナーの冒頭、特許庁の松永明長官が講演して、興味深く聴いていた。

# 吉野さん特別講演

来月22日郡山特許庁セミナー  
受賞後

電池がその中心的な  
割を果たすだろう」  
展望した。十一月の  
紙インタビューでは  
後の県内の産業界に  
いて「福島独特の産  
業を考えたら  
福島でしか作れな  
ものがあるはずだ  
述べ、「いわきバッテ  
リー構想」実現  
特別講演に先立ち  
ネルディスカッショ  
ンを催す。帰還航路  
た小惑星探査機  
やぶさ2」を運航し  
いる宇宙航空研究開  
発機構（JAXA）が  
画した県内企業・ナ  
ショナルが、主要ミッ  
ツを成功に導いた

技術	参観	入はて	申込	掲載の申	紙を印刷じア	クス 024(1000)	453433でも受け付け	る。問い合わせは事務	局の福島民報社企画推	進部 電話024(5	31) 41011。
学	究	入	ん	し	ushima-ip.go.jp	からQRコードか	し申込込む。	う申込し込む。	ushima-ip.go.jp	からQRコードか	し申込し込む。

# 完成間もない南相馬市の 福島ロボットテストフィールドで開催

# 浜通り×ロボット 語る



知財活用の在り方について話す(右から)宇田、馬場、上荒磯、増山、赤穂の各氏

用プロジェクト アイ  
ニア・技術をビジネス  
につなげよう!」の第  
弾セミナーでは、地  
元の経営者らが知識的  
な知識を身にかぶら新  
たなビジネス創出や経  
営基盤の安定化などに向  
けたヒントを考えた。  
二部構成。第一部は  
講演で、フィールドの  
各施設や福島・国際研  
究産業都市（イノベー  
ション・コースト）構  
想・特許局の施策など  
を紹介した。フィール  
ドの細田慶蔵副所長  
特許局総務部支援と支援  
課の遠山嘉奈支援企画  
班支援企画第一係長、  
特許局の増山達也事業  
ビジネスプロジェクトマーザ  
ーがそれぞれ講演し  
た。県産業振興センター  
河市市立図書館で十  
月二十七日、郡山市  
で来年一月下旬に開催  
する予定。

一技術支援部(郡山市)を抱忘し県内企業の事業創出を支援している。増山氏は「知財を活用し、売れる商品をつくることが重要。それにより知財の価値を高め、いへー」と強調した。第1部のパネルディスカッションでは、ロボット関連企業の代表の二人が今後の知財活用に意見を交わした。タジマモーターコーポレーション会長専門家、新事業開発室の上荒磯祥義長、アイザック・ルーリーが登壇した。会場は福島県立農業技術センター(福島県知財活用プロジェクト)で、電話024(410031)4166へ。

す。活躍度三向一、関係自らあ門健主 レ二部テ。重支援には宇田ト宇ボ担  
す。用さは会け知

## 原町で第1弾 知財セミナー

## 関連企業代表ら討論

一技術支援部(郡山市) ク總務部の馬場法孝担任  
を拠点に県内企業の事  
業創出を支援している  
当課長、イームズロボ  
ティクス東京支社の宇

## ■知財関連話題の積極周知(報道)

- ・ものづくり日本大賞最高賞の小松技術士事務所の小松所長は2019年度の第5回ふくしま産業賞「福島民報社賞」(2位)
- ・経産大臣賞の大七酒造の太田社長は2015年度の第1回ふくしま産業賞で知事賞(最高位)を受賞

=2018年1月16日付 朝刊1面トップ



小松氏の特許技術を活用した食器—昨年11月、フランスのレセプション

※ ものづくり日本大賞は、製造・生産現場の中核を担う人、伝統的・文化的な技を支えてきたベテラン、今後を担う若者などものづくりに携わる各世代のうち、特に優秀と認められる人材を顕彰する政府の事業。経済産業省、国土交通省、厚生労働省、文部科学省が連携し、2005年から隔年で開催している。



太田英晴氏 小松道男氏

県内からの最高賞受賞は、第四回の斎藤織物(川俣町、第二回ふくしま産業賞知事賞受賞)、第六回の郡山北

工高コンピュータ部(郡山市)に続き三度目。福島のものづくり目標に、全国に広がった。

今回、内閣総理大臣賞を受けたのは小松氏を含め二十四件七十一人。小松氏は植物を原

## ものづくり日本大賞

製造業の振興に貢献する人材を表彰する政府の「第七回ものづくり日本大賞」が十五日、発表され、最高賞の内閣総理大臣賞にいわき市の小松技術士事務所長の小松道男氏(五四)が選ばれた。環境保護に注目が集まる中、植物由来のプラスチックの成形技術を開発し、高い評価を得た。内閣総理大臣賞に次ぐ経産大臣賞「伝統技術の応用部門」に、二本松市の大七酒造社長の大田英晴氏(五七)が選出された。

(25面)関連記事

## 最高賞 県内から3度目

料としたプラスチックの成形技術を生み出し、国内外で多数、特許を取得している。環境に優しい自然由来のプラスチック製品が世界的に普及するきっかけになるとき、昨年

十一月には、フランス

・リヨンで開かれた天

皇誕生日祝賀セレブシ

ヨンに自身の特許を基

に生産した食器を展出

し、注目を集めた。

小松氏は自らの知的財産を生かし、国内企

業と協力して商品開発

を進めており、子ども

用食器を製造販売して

いる愛知県新城市の豊

栄工業の美和弘常務

太田氏(いわき・小松) **最高賞**  
太田氏(大七酒造) **経産大臣賞**

（四五）と連名で受賞した。太田氏は純度の高い白米を削り出す「超扁平（へんぺい）精米技術」を全国で初めて酒造りに導入し、評価を受けた。大七酒造は福島民報社の「第一回ふくしま経済・産業・ものづくり賞（ふくしま産業賞）」で知事賞を受けている。

総理大臣賞22

東京で表彰式

ものづくり日本大賞

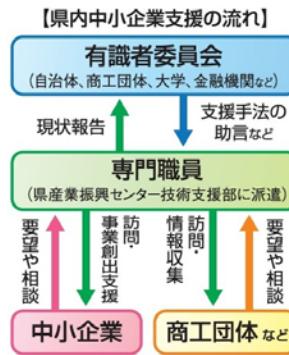
の内閣総理大臣賞の表

## ■ 知財関連話題の積極周知(報道)

県内の知財活用啓発  
のため元日本弁理士  
会長の佐藤辰彦氏  
(福島市出身)に  
コラム執筆を依頼。  
2017年8月から  
毎週掲載。120回を  
越え継続中



特許庁が東北で初めてビジネスプロデューサー派遣事業を2019年度、福島県で展開。  
有識者委を設置。



## 東北初、専門職員派遣

大学、金融機関など正業が下請け型から知るよう支援する。派遣する専門職員が事情報を分析。支援対象アドバイスする。専(2面に関連記事)

員派遣

福島知財活用プロジェクト事業創出実証研究事業の一環で、支援の概要は、図の通り。専門職員は一人で、知財や起業、経営などに精通したコンサルティング会社に業務委託する。職員は県内各地の商工関係団体や知財

を保有している中小企業などを訪れ、知財の活用状況のほか新事業創出に意欲がある事業者や経営上の課題を抱える企業などの情報を集約する。

有識者委員会は、職員からの報告を基に、製品化や販路拡大の方法などを具体的な支援策を検討する。委員会の検討結果を踏まえ、職員は対象企業と協議しながら事業化に結び付けよう。設備投資などが必要な場合は、金融機関などとの仲介役も担う。知財を保有する企業同士のマッチングに

県内には高い技術力を持つ中小企業が多くある一方、知財が有効に活用されているかは明確でない。同市は職員がきめ細かく地域を取り回り情報収集を行う。実行性の高い支援につなげたいと考える。

県によると、県内の中小企業は部品の加工や製造など大手企業の下請けに入っている事業所が多いため、経営基盤の安定を図り、本県産業のさらなる振興につなげるには、自社技術の開発、技術を生かした製品製造が課題だ。このため、県も二〇一七

(平成二十九)年度から知財保護に精通している弁理士を企業に派遣し、事業化を後押ししている。県内では知財の出願件数が増加傾向にある。二〇一七年の特許

## 県内企業下請け脱却支援

# 知財活用へ有識者委

来月にも特許庁

## ■ 知財関連の積極周知(報道)

## 成功事例積み上げる

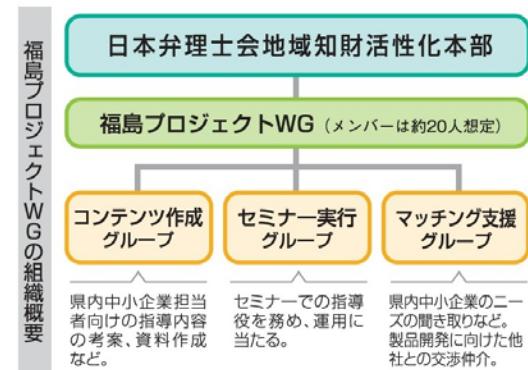
2019年  
8月15日付  
朝刊3面

うした勢いを、さらに  
加速させ産業の活性化  
につなげたい」  
—日本弁理士会とし  
て、これまでも支援を  
してきた。

「知財の基礎を伝え  
るセミナーなどを開催  
し、多くの県民に聴講  
してもらつた。より高  
いレベルを求める企業  
関係者も出て来てお  
り、WGによる事業展  
を拡大していきたい」

開が必要になった。手  
探りの部分もあるが、  
成功事例を積み上げて  
全国に広めていく」  
—来年度以降の見通  
しについて。

## 福島支援に特化したワーキンググループ新設を報道



特許などの知的財産（知財）に精通した全国の弁理士で構成される日本弁理士会は、「福島プロジェクトワーキンググループ（WG）」を組織内に新設した。本県産業の復興支援強化が狙いで、同会が地域を絞り込み、域内の業者をサポートする初の取り組み。自社製品を開発しようとする中小企業が求める技術を調査し、交渉先を仲介する。県内企業の実務担当者に知財の保護・活用に関する実践的な指導を行い、専門性の高い人材を育成する。（2面に関連記事）

日本弁理士会は県内の知財への関心が高まりつつある現状を受けて、さらに一步踏み込んだ支援に乗り出す。個々の企業に対し、知財の具体的な出願方法や品販化を見据えた活用策をサポートする仕

福島プロジェクトWGは清水善広会長を本部長とする地域知財活性化本部内に設けた。組織概要是、図の通り。指導内容の考案やセミナーの講師、マッチング支援を担う三つのグループに分かれ

小企業を訪ね、製品化

## 日本弁理士会

や部品などの要望を把握する。国内の特許情報を探して、報を公開している工業所有権情報・研修館のデータベースから支援企業の求めに見合う技術を探し、交渉先となり得る企業を紹介する。

特許庁によると、国内で登録されている特許件数は昨年末時点でおよそ二百五万四千件に上る。中小企業が膨大な特許情報から必要とする他社技術を見つけ、单独で交渉するのは容

易ではない。

同会によると、行政による従来のマッチング支援策では知財を既に所有している企業から、格化した技術提供のため、軸足を置く場合が多い。新製品の開発や販売を目指す中小企業の課題解決には必ずしも直結しない面があつたため、より効果的な支援策を探ってきた。

弁理士による実践的指導は、企業の知財担当者らに向けに実施す

## 知財活用 商談仲介や実務指導

# 県内企業支援へ新組織

元気な産業が数多く頑張っています  
ふくしまを見に来てください

ご清聴 ありがとうございました

福島民報社 鞍田 炎